

コミュニケーション

2005・5月号

OMORIYAMA

ZOO
NEWS
大森山

No.69

特集
園内情報マップ



イヌワシの親子

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo



シンリンオオカミ



アムールトラ



ホオアカトキ



イヌワシ



アメリカビーバー



カナダヤマアラシ

ほっといんふおめーしょん

1 シンリンオオカミの群れづくり

ミッドナイト(オス)、サラ(メス)の2頭に新しく若いメスが富山市ファミリーパークから仲間入り。名前はハチ。何度かの見合いを繰り返して、すんなり群れに受け入れられたよう。写真は群れの大おばさんサラ(左)のご機嫌を伺うハチ(右)。(3/28来園)

3 ホオアカトキが仲間入り

野生では北アフリカ・モロッコなどに200羽程度しか生息しない希少なトキ。国内12の動物園で現在約100が飼育されている。トキの繁殖をめざそうとする大森山にオス3、メス3計6羽が上野動物園から贈られた。さっそく、2つがいが増え、ヒナ誕生するか。(4/4来園)

5 アメリカビーバーの三つ子

春の開園日3月19日に誕生したビーバー三つ子ちゃん。お母さんの元にいるときは仲良く3頭一緒だが、何故かプールの入るとバラバラ。でも時にお母さんの尻尾にくっついて並んで泳ぐ姿、さすが親子と感心させられる。(3/19誕生)

2 アムールトラが新たに登場

体長3m以上、体重300kgにもおよぶネコ科最大級の動物。ウィッキー(写真)は富士自然動物公園からやってきた。アムールトラにしては少々小柄で体重は250kg程度だが、それでもこれまでのベンガルトラと比べると格段の差、ガラス越しに見るウィッキーの大きさと威圧感に誰もがびっくり。(3/12来園)

4 赤ちゃん誕生 イヌワシ

日ごと大きく成長するヒナ。7月上旬までにはすっかり羽も生え替わり、巣立ちをむかえる予定。写真は4月14日に孵化した最初のヒナ。(1羽目4/14、2羽目が4/16誕生したが、2羽目は残念ながら5/21死亡)

6 カナダヤマアラシに赤ちゃん

北米の森林にすむ彼らは一日のほとんどを木の上で過ごしている。去年に続き、今年も繁殖に成功。とげはあっても子の姿、やはり愛くるしいもの、静かな人気もの。お乳を飲む以外、木の上でいつも一人(?)でくつろぎモード。(4/16誕生)

7 グラントシマウマの誕生

誕生から2ヶ月が経ち、展示場に展示出来るまでに成長。母親のナイーブに甘えたり、走り回ったりと愛嬌を振りまいている。5月の下旬には、別飼育している父コタロウとの同居予定。(3/15誕生)

8 フタコブラクダに赤ちゃん誕生

母親・田田(テンテン)の12頭目となるメスの赤ちゃん。5月2日、父親・蘭泉(ランセン)が老衰で亡くなる2日前に誕生。命をとなげようとする動物の不思議な力を感じてしまう。

訃報



チンパンジー ミュキ(メス) 享年20歳 (1984年6月21日生まれ)

大森山のチンパンジー2世誕生の期待を背負って、熊本県にある三和化学研究所から3年前にやって来たミュキが、4月5日に20才(人なら40才くらい)の若さで他界しました。ここ数ヶ月、原因がはっきりしないまま体調が芳しくなく困っていましたが、食事中発作を起こし、食べたものをのどに詰まらせて窒息死してしまいました。詳細は検査依頼中ですが、ひ臓のガンと慢性的に心臓が悪かったようです。

ミュキはとてもシャイなそして人見知りする性格でしたが、群れのユミノスケやノリコともうち解けあい、仲睦まじくしていた姿が思い出されます。安らかにお眠り下さい。

フタコブラクダ 蘭泉【ランセン】(オス) 享年27歳 (1978年3月生まれ)

中国甘粛省蘭州市との友好都市締結に先立ち、1982年に蘭州市から秋田市に贈られ、長年飼育してきた蘭泉が5月4日、長寿、老衰のため亡くなりました。

蘭泉はこれまで15頭の子を残し、子どもたちは日本全国の動物園に送られるなど、国内の動物園のラクダ飼育展示に大きく貢献してきました。5月2日には蘭泉15番目となる赤ちゃんが生まれ、その誕生を見届けるようにその2日後、静かに息をひきとりました。



シロイワヤギ デミー(メス) 享年13歳 (1991年5月25日生まれ)

子どもたちに「シロヤギさん」と呼ばれ、密かに人気があったデミーが5月5日老衰のため亡くなりました。デミーは、92年5月29日、三重県御在所岳にある(財)ニホンカモシカセンターからやってきました。大病もせず長生きしてきましたが、昨年春に立つことができなくなり、懸命の治療で奇跡的に回復し、その後は静かな場所で余生をおくっていました。しかし今年の春、再び立てなくなり治療を続けていましたが、炎が消えるように静かに息をひきとりました。



特集

園内情報マップ

＜まんまタイム＞動物たちがどんな風に餌を食べるのか間近で観察しよう！

【エサやり体験】実際に動物にエサをあげてみよう！

※＜まんまタイム＞、【エサやり体験】の対象動物は体調や天候によって変更があります。

動物園で指定したエサ以外はあげないでください。



ビーバー

3つ子プールデビュー！
可愛い泳ぎは必見、
夜行性なので日中は寝て
るかな？



＜アシカのまんまタイム＞

食欲旺盛なアシカの食べっぷり
を見にきてね



ペンギン

今年も繁殖中、エサを食べる姿
も見どころだよ



【ヒツジのミルクやり体験】

ヒツジが大きくなる6月末まで
の限定サービス



【ヤギの エサやり体験】

欲張りなヤギに草
をあげてみよう



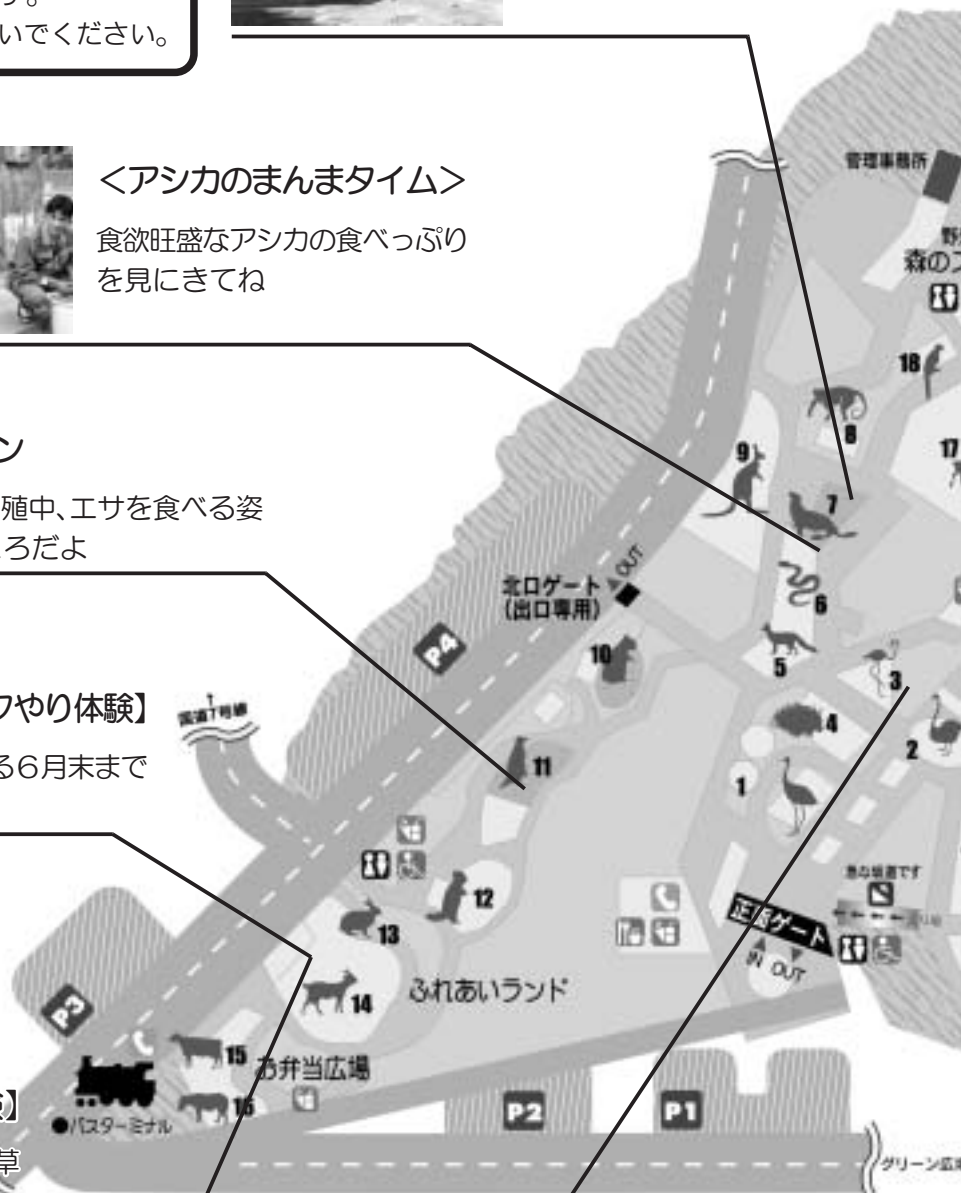
＜フラミンゴのまんまタイム＞

フラミンゴ独特の食べ方を観察して
みよう



クジャ

メスの
羽を広
（6月
れます





<トラ・ライオンのまんまタイム>

猫パンチで獲得したエサを豪快に頬張るトラやライオンが見られるよ



【サル山エサやり体験】

大人猿にとられないように子猿にもエサをあげてみよう



イヌワシ

滅多に見られないイヌワシの成長をモニターで観察してみてね



マーコールのお立ち台

エサを食べたり休んだり高台に登ったマーコールは気持ちよさそう



【キリンのエサやり体験】

キリンの舌の長さに驚くはず、間近に迫ったキリンと記念撮影も



<ゾウのまんまタイム>

美味しいエサのためなら一生懸命になるよ



シマウマ

展示場デビュー！
元気いっぱい走り回った後は、やっぱりお母さんの側に



<チンパンジーのまんまタイム>

豪快なジャンプで好物のバナナをキャッチできるかな？



【フライングケージエサやり体験】

(とりっこの水辺にて)
パンをあげたら水鳥が近くに寄ってくるよ



ヤク

気を引くため一生懸命
上げているよ
一杯は綺麗な羽がみら
)

ビーバーの歯医者さん

飼育展示担当(獣医師) 高橋 広志(98)



▲下の歯がななめを向いて異常に伸びています。

ビーバーは、するどい前歯でかたい大木も齧り倒してしまうネズミの仲間(齧歯目)です。トレードマークの大きな前歯(門歯)は、人の歯と違って一生伸び続ける便利なものですが、その代わり一度噛み合わせが悪くなるととんでもない方向に伸び続けてエサが噛めなくなってしまう(これを不正咬合といいます)。

今年の3月ごろ、三つ子を生んだばかりのお母さんビーバーが、この不正咬合のためにエサを食べられなくなってきました。歯を治療するためには全身麻酔が必要です。でも授乳への影響を考えるとすぐには治療に掛かれず、食べやすいようにエサの切り方を変えて何とか体力を維持させていました。4月に入ると母ビーバーは、不正咬合の悪化に育児疲れも重なっていよいよゲツソリとやせてきました。これ以上治療を先延ばしにすると命にも関わります。思い切って麻酔をかけて治療することにしました。口の中を検査してみてもビックリ!異常に伸びた下の歯が、上のアゴに突き刺さって歯肉に穴を開けています。これ

ではエサを食べられるはずありません。すぐにヤスリで伸びすぎた部分を切除して、表面をなめらかに削って角度を整えました。治療後はすぐにエサを食べられるようになって、心配していた麻酔の影響もなく母仔4匹幸せに暮らしています。ゴールデンウィークを前にして、三つ子たちも無事にプールデビューを果たすことが出来ました。幸せいっぱいのビーバーファミリーをぜひ見に来てあげてください。

飼育日誌より

12/17 ☘/☘ レッサーパンダ、体重チェック。ナナ5.5kg、健健7.2kg、ハナ5.0kg、風4.0kg、陸2.2kg。
12/30 ☘ ツキノワグマ、排便に回虫がいたため、駆虫薬投与。
1/4 ☘ ペンギン、12/13繁殖ヒナ1羽、餌をのどに詰まらせて死亡。
1/8 ☘ トナカイ♂、左角落角。
1/14 ☘ 冬の開園(〜10)3日間で3,089名来園。
1/23 ☘ オオハシ、性別判定のための採血。
1/23 ☘ フサホロホロチョウ、「右赤、左右」一部壊死していたので病院へ収容。体重1.24kg。
1/28 ☘ コウノトリ、体重チェック、♂4.54kg、♀4.20kg。
2/1 ☘ イヌワシ、9:00〜16:15の間に6回くらいの交尾行動あり。
2/2 ☘ カビバラ・ビーバー、カビ感染調査。
2/3 ☘/☘ シュバシコウ、BLで八木山動物園へ搬出。
2/11 ☘ 冬の開園(〜13)3日間で4,617名来園。
2/12 ☘ イヌワシ、14:45頃交尾行動確認。
2/15 ☘ ニホンリス、♂1 ♀1 盛岡市動物園より搬入(寄贈)。オオハシ、性別検査、2羽とも♀と判明。
2/16 ☘ 雑ヤギ、♀7 ♂2、小岩井農場へ搬出。
2/16 ☘ レッサーパンダ、「陸」が「風」に咬まれるため、夕方「陸」を「ナナ」と同居させる。
2/17 ☘/☘ ツキノワグマ、親子(母仔)、本格的に冬ごもりに入った様子。
2/18 ☘ エボシキジ、♀、搬出。体重1.24kg(約7ヶ月齢)。ノドジロオマキザル、ナナエ♀、左中指をえぐられたようにケガしていた。加えて、妊娠発覚。
2/19 ☘/☘ ニホンザル、カツヨ♀、カツオ♂の2頭那須モンキーパークへ寄贈。
2/23 ☘/☘ オオヅル、♂出血性腸炎で死亡。
2/24 ☘/☘ イヌワシ、交尾、ビデオにて6回確認。
2/26 ☘ ノドジロオマキザル、ナナエ♀妊娠中のため、治療ができず抗生物質を投与。
ヒツジ、♀8 ♂1 小岩井農場へ搬出。
2/28 ☘/☘ オオカミ、ハチ♀搬入。
3/3 ☘ ソウ、本日より新人の係留脱着訓練を開始。スムーズに行う。
3/4 ☘/☘ イヌワシ、1個目の産卵を確認。
フクロウ、本日から3/11まで6個産む。卵を採卵し、病院に保管。
3/8 ☘ ペニコンゴウインコ、♂1 ♀1 南北貿易より搬入。
3/9 ☘/☘ フサホロホロチョウ、♂1 ♀2 搬入。
イヌワシ、2個目を産卵しているのを確認。
3/10 ☘ コクチョウ、♀2 ♀2 狭山市智光山こども動物園より搬入。
ニホンリス、2/15搬入個体2頭を現在いる個体と同居。
ヒツジ、♀4 小岩井農場より搬入。
3/11 ☘ カナダヤマアラシ、コウシロウ♂1(仔)埼玉県こども動物園へ搬出。

クマタカ ♀1 旭山動物園より搬入。
アビシニアコロブス、♀1 旭山動物園より搬入。
シバヤギ10頭、上野動物園より搬入。
3/12 ☘ セントクロイ2頭、井の頭自然文化園より搬入。
3/13 ☘ アムールトラ、♂1「ウイッキー」搬入。
3/15 ☘/☘ ペニコンゴウインコ、♂と♀同居。問題なし。
3/16 ☘ グラントシマウマ、♂1仔出産。
3/17 ☘ クマタカ、糖高♂1旭山動物園へ搬出。
ペンギン、No.49♂1京都市動物園へ搬出(寄贈)。
カビバラ、「物」♂「語」♂吉川商会へ搬出(交換)。
カンガルー、「ブリッツ」♂吉川商会出陳引き取り。
カンガルー、「モモ」♀京都市動物園より寄贈(受)。
3/18 ☘ アネハヅル、「緑-G」♂吉川商会へ搬出(交換)。
ペンギン、No.39×右黒ベア1個目を抱卵。
オシドリ、36羽吉川商会より搬入。
F.ケージ、越冬舎内の鳥をF.ケージ内に放鳥する。
3/19 ☘ ビーバー、3仔出産。
開園：555名来園。
3/21 ☘ ラクダ、♀の出産準備のため、3頭同居。
3/22 ☘ ゾウ、14:35完全交尾確認。
3/24 ☘ ラクダ、蘭泉♂と案案♀の間で闘争あり。田田♀は産室にて別居。
3/30 ☘/☘ ライオン、カズ♂×ララ♀交尾行動確認。
インドガン、1羽F. ケージから脱走。捕獲を試みるが失敗。
3/31 ☘ インドガン、脱走していた個体、捕獲しF. ケージ内に戻す。
ワタボウシバンシェ、1仔出産。食害にて死亡。
4/4 ☘ ホオアカトキ、上野動物園より搬入。(寄贈)
4/5 ☘ ワビチ、♂両角、落角。右1.43kg 左1.53kg
チンパンジー、「ミユキ」心不全による衰弱、誤嚥による窒息死。
ユキヒョウ、交尾行動確認。
4/8 ☘ ペンギン、右黄赤×左黄黒ベア抱卵。
4/9 ☘ ハワイガン、イタチかテンによる食害で死亡。
4/14 ☘ イヌワシ、3/4産卵個体ふ化。
4/17 ☘ "ウォークイズ"お願いヒトマン開催。2,617名来園"
4/18 ☘ イヌワシ、3/9産卵個体ふ化。
4/21 ☘/☘ ヒツジ、♀3、♂1小岩井農場より搬入。
4/24 ☘ イヌワシ、第2ヒナ、第1ヒナによる攻撃により負傷。衰弱が認められ保護収容。
ワタボウシバンシェ、♂循環不全で死亡。
4/26 ☘ アライグマ、脱腸部切除手術。
ラクダ、蘭泉♂朝、転倒により起立不能となる。治療開始。
4/27 ☘ カビバラ、「シン」♂死亡。父との闘争が原因と思われる。
アライグマ、♂1死亡。(4/26手術個体)。
4/29 ☘ ペンギン、No.39×右黒ベア 孵化確認。
4/30 ☘ ラクダ、蘭泉♂夕方、起立しようとした際に転倒し起立不能のため治療。

飼育レポート①

チンパンジーとの知恵くらべ



飼育展示担当 佐藤 勝典

チンパンジーは知能が高く、ヒト以外のどんな動物よりも、はるかに幅広く問題解決に道具を使います。大森山では2年前から、そんな様子を実際にご覧いただきたいと思い、職員手作りのエサの堀り出し柱やボックスを用意してきました。小さな枝切れを与えると、それを使い中の豆などをかき出し食べるのです。しかしこの様子、一度にたくさんの方々に見てもらえないという難点もあり何か他の方法と考えていました。

そこで、今度は、普通にエサを与えるのではなく、屋外展示場にいるチンパンジーが簡単に届かないようにチンパンジー舎の展望台からひもでバナナやパンを吊り降ろし、彼らがどんな反応や行動をとるかを皆さんに見て頂こうと工夫を凝らしてみました。

その結果、二足歩行する姿、そして、ジャンプ「跳躍」、さらには、あらかじめ運動場に準備しておいた枝木、竹を使い懸命にバナナやパンを取る姿を見ることができるようになりました。

その姿に来園者の歓呼とともに飼育スタッフであることを忘れ、手を大きくたたいている自分がいました。苦勞したことは、エサを上手に取らせるため動物が興奮しないようにすることでした。道具を使用してエサを取る姿を、今度はさらに進化した形でお見

せできできるようにこれからも努力したいと思います。

秋田のチンパンジーはこれまで大きな群れにいなかったため、文化の伝授がすくなく、単調な暮らしをしていましたが、これからは生活することの楽しさを私たちがもっともと提供し、より進化したチンパンジーをご覧頂けるよう、あるいは秋田から何かを発信できるチンパンジーになってもらいたいものです。

飼育レポート②

マーコールの展望レストラン



飼育展示担当（獣医師） 高橋 広志 (00)

マーコールは家畜ヤギの原種の一つとされる最も大型の野生ヤギで、山岳地域に生息し、切り立った岩場を住みかとする非常に跳躍力のある動物です。

放飼場内には、高い所大好きなマーコールのために、小屋の屋根に上がる足場をつけ、屋根上には”展望レストラン”を作りました。「うまく登ってくれるかな。」と、飼育員の心配をよそに、来園数日後には、軽々と登っていました。地上からの高さは、3.6 m。眼下には塩潟湯が広がり、その先にはフライングケージも一望できます。そんな動物園でも最高のロケーションの一つをマーコール達は、独り占めにしています。

マーコールは、放飼場フェンス近くに人が来ると、「何か貰えるのかな？」と首を傾げながら寄ってきます。フェンスの網目越しに青草を入ると唇でむしり取っていきます。現在、雄2頭、雌1頭のマーコールがいますが、餌をもらうときの3頭の位置関係、人への近づき方を見ていると、何となくこの3頭の性格が判ってくるような気がします。来園の際は、観察してみてくださいね。

今では、逃げられないように苦勞して設置した高さ5 mもの柵も、人なつっこく大森山が気に入った様子のマーコールにとって無用の長物と化しています。

飼育動物数

	種 類	点 数
哺乳類	64	317
鳥 類	56	254
爬虫類	11	33
魚 類	4	31
合 計	135	635

(平成17年4月末現在)

編 集 後 記

昨年の4月に市の広報課から動物園に異動になってから1年が過ぎました。その間、動物たちの誕生や死に直面し、命の尊さや大切さ、強さやはかなさを今まで以上に感じるようになりました。動物園では毎日様々な出来事がおきています。これからもこの出来事を情報として少しでもコミュニケーションでお知らせできればと思っています。

木村 俊夫

ヒントマン再び!!



冷たい雨が止み、薄曇りの動物園にあの「ヒントマン」が「アシストマン」を引き連れ帰ってきた!

昨年参加者にとっても好評だった「おねがいヒントマン」ウォーククイズが4月17日、パワーアップして開催されました。園内に備え付けられた問題を解いて廻るこのクイズ、最大の特徴はヒントタイムにヒントマンが登場し、各問題の解説やヒントを出して回答者の手助けを行います。

今回は前回よりもまして、いいかげんな? 衣装のヒントマンにこれまた怪しい衣装をまとったアシストマンが仲間入り。会場を多に盛り上げ、ヒントマンと一緒にヒントマンのポーズをとりながら、解説に耳を傾ける参加者の笑顔が印象的なイベントとなりました。

今年は、6月19日(日)、10月16日(日)にも「おねがいヒントマン」のイベントを開催する予定です。今回参加できなかった方も参加された方も是非次回のイベントに参加してみてもはどうでしょう。きっと病みつきになりますよ(笑)



(次のポイントに向かうヒントマンとアシストマン)

行事予定

おねがいヒントマンクイズ	6月19日(日)、10月16日(日)
写生大会	7月26(火)
親子サマースクール	7月30日(土)、8月2日(火)
夜の動物園	8月12日(金)～15日(月)
動物愛護フェスティバル	9月19日(祝)
さよなら感謝祭	11月23日(祝)
フォトコンテスト	6月1日～9月30日

(※動物園で撮影した写真に限ります。)